令和 3 年度事業評価シート

1241		一及子之		•			車	
PLAN(計画)	•	自己部	平価				事務事 業番号	61
担当	課	教育委員会			担当課	長	江上 智	恵
	当 者	田実 真一			一次評価	者	安部 憲	一郎
事 業 分	区	継続事業			事務事業評価	の履歴		有
事 務 事 名	業	グローバル人	材育成事	業				
予 第 目	科	10 款	1 項	3 目				
予 算 事 名	業	グローバル人	材育成事	業費				
総合計画での位 (施 策	:置づけ 名)	学習・スポーツ	ソ機会を広	げる				
事業の格	性	自治	事務					
法令根	. 拠	_	'					
事業の対 事業の対 の対 町内在住の幼稚園児・保育園児			保育園児・小	学生・中学生・高	「校生・フ	大学生		
事業の的	・ALTを雇用し幼稚園、保育園、各学校英語活動の活性化を目的とする・中学校にて英語塾を開催し、英語科の的・修学旅行を利用し諸外国との交流の様・海外の学校への語学留学を通して、語見識を身に付けることを奨励する				成績向上及び英記 会を設けることで	吾検定3約 、実践的	吸以上の耶 な英語を習	双得を目指す 習得させる
実施期間	開始年度	平 成	29	年度から				
天心粉间	終了年度	令 和		年度まで				
事業の	内容		いて、株式会社 旅行において、	トライグループと 英語体験活動を	動の充実を図る。 提携した英語塾を開催 行うための費用を一部			
┃ ┃目 的 達 成 <i>0</i> .	、	第3学年の英語検定3級以上取得率						
(成果指標		目標	単位 2 %	50	3 年度 60	4	年度 60	5年度 60
指標設定の	実 績 % 58 63 63 中学校卒業時点で英語検定3級(中学校卒業程度)以上の能力を有し、実践的な英語を習得しているグローバル人材の育成機会を増やすため、取得率を指標とする。							
計画時の懸案	・ALTを町で直接雇用しているため、人材確保の安定性に欠ける。 ・英語塾参加にあたっての保護者負担費がテキスト代のみであるため、やる気や向上心が希薄な生徒が見られる。 ・修学旅行の行先は社会情勢に左右されやすい。 ・語学留学を、帰国後の町への貢献や、小学生・中学生への留学意欲の喚起に繋げる必要がある。							
計画時の懸案事項		・英語塾の保 検討	護者負担費	費用の在り方	は、共同実施企 の検討・英語を の開催を検討			

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額 2,142 円

于勿主人			※負	<u> 担額には国費・県</u>	<u>費は含まれていま</u>	<u>せん (千円)</u>
項目		2	年度予算	3 年度予算	4 年度予算	5 年度予算
	①人工数		0.08	0.08	0.08	0.08
事務量	②人件費単価		7,652	7,179	7,898	7,898
争伤里	③ 補助事業人件費		0	0	0	0
	人件費(①×②-③)		612	574	631	631
	直接事業費		21200	19226	19806	19806
事業費	人 件 費 合 計		612	574	631	631
	合 計		21,812	19,800	20,437	20,437
	国庫支出金					
	県 支 出 金					
財源内訳	地 方 債					
	その他		10000	9613	9880	10000
	一般財源		11,812	10,187	10,557	10,437
	合 計		21,812	19,800	20,437	20,437

事業費計画

(千円)

区分/年度	2	年 度	3	年 度	4	年 度	5 年度	6 年度	F
目 標		21,200		19,226		19,806	19,800	19,	,806
実 績		17,871		17,103					

事業活動の実績(活動指標) ※ Laurth 日標値を 下野にけま締値をそれぞれ記入してください

		※ 上段には日 様	『値を、下段には実		
項目	単位	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ALTの雇用人数	人	3	3	3	3
ACT 00 雇用人致		3	3		
英語塾開催回数		30			30
大品至所准因数	1	28	28		
海外の学校との交流回数	回	2	2	2	2
	Ш	0	1		
イングリッシュスクエア実施回数		2	2	2	2
リングラクシュハクエグ 矢旭日数	<u> </u>	1	0		
海外語学留学支援者数	人	5	5	5	5
海介品于由于又汲有奴		0	0		

DO(実施)

事務量及び財政内訳

町民一人当たり負担額 1,911 円

年度予算 項 目 2 年度決算 工数 0.08 0.08 0.08 0.08
 ② 人 件 費 単 価

 ③ 補助事業人件費
 7,652 7,179 7,022 7,898 事務量 人件費(①×2-3) 612 574 561 631 直接事業費 19226 19806 17,871 17,103 人 件 費合 計 事業費 612 574 561 631 18,483 19,800 17,664 20,437 国庫支出金
 県 支 出 金

 地 方 債
 財源内訳 の 他 8,935 9613 8,551 10000 9,548 般 財源 10,187 10,437 9,113 17,664 18,483 19,800 20,437

⋍	+/	生	_	유크	
ᆂ	施	Ή		サル	ē
^	ظارر	ᄪ	<i>'</i> '	エイ	٠

<u>CHECK</u>	<u>(評価)</u>	<u>)</u>				No.3
自己評価	評価者	田実 真一	5段階評価で 5 大 ◆ →		, i i	
1. そもそも必					評点	判定
□ 緊急性が □ 実施しな	「高く、即日 ければ町	系い。ニーズが増加傾向で 時に実施しなければならな ・民生活に及ぼす影響がナ イメージアップの向上に寄り	にい。 さい。		5 3 4 5	Α
2. 町が実施	する必要が	があるか?				
□ 町が実施	主体とな	ることが法令等により定め	りられている。 ※該当する場合は左の	ロにチョ	ロックしてく	ださい。
□ 民間等や □ 民間等あ	国・県で	いは政策判断を伴い、民間 実施するよりも効果的であ 国や県で類似事業を実施し	5る。		3 5 3	В
3. 実施内容	<u> は適切か</u>	?				
①有効性	\ A = I +	++=====================================				
□ 事業の手	法∙活動	&本計画の将来計画を実り 内容は適切である。 犬況や進捗状況は順調でな	見するために有効な事業である。 ある。		5 4 4	Α
②効率性						
□ 外部委託 □ 実施方法	E等(指定 の工夫に	:成果を上げている。 管理者を含む)による効率 こより効果を維持しながら:			4 4 4	В
③公平性·选						
□ 事業費に	占めるー	ヽて課題はない。(または、 −般財源の額は妥当である <u>、報を活用し、積極的に情</u> す		۰。)	3 4 4	В
今後(の方向性	A・B=目標達成で		<u> </u>	しの日仕	4 da da
		C・D=目標達成で			しの具体に	
		っり進ん ぐおり、コストを払 どおり進んでおり、現状の3	まま事業を進める)	□ 事業 □ 受益	西方法のエ 美の効率化 全者負担の 美縮小)他	í
4. 自己評価(の理由(必	<u>必要性、有効性、効率性、∕</u>	公平性・透明性の観点から)			

将来を担う子ども達が人間性と創造性を育むための一つとして、グローバルな人材を育成する本プログラムは、 総合計画後期基本計画に合致しており、必要・有効な事業であると言える。本年度は、ALT(外国語指導助手)を3 名雇用し、各幼・保・小・中学校に派遣した。英語塾については、75名の中学生が受講し受講生の多くが英語力を UPさせていることからも有効な事業と言える。

5. 成果実績の評価(今後の方向性等について具体的に)と課題認識

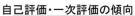
ALT(外国語指導助手)の雇用方法について、派遣委託ではなく直接雇用であるため、雇用管理事務に相当な時間を要しているが、英語に興味を持つ児童生徒が増加しており、その成果は確実に上がっている。また、英語塾 に参加した多くの生徒が飛躍的に成績を上げており、本町における児童生徒の英語力向上に当該事業が寄与す るところは大きい。

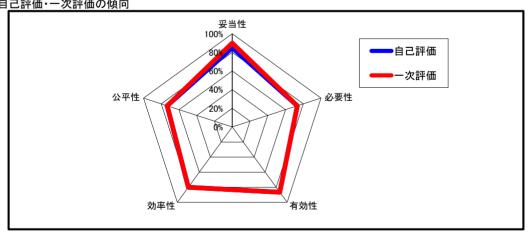
また、中学校2年生がフィリピンセブ島とオンラインでつなぎ、現地の外国人講師と英会話学習を行った。令和4 年度以降も国内外の状況を見ながら実施について判断する必要がある。

久原本家グループからの事業支援により軽減されており、今後も継続していくべき事業であると考える。

OHILO		<u> </u>				110
一次評価	評価者	安部 憲一郎	12.7	階評価で評点 ◆ → 小 1	を付けます ↓	f 。
1. そもそも	必要な事業	か?		-	評点	判定
	0二一 ズがき	い。ニーズが増加傾向で	あ る		5	117.0
		時に実施しなければならな			4	
		 民生活に及ぼす影響が大			4	Α
					5	
		イメージアップの向上に寄与	7 90.		ິວ	
	施する必要:		- > b t - 7	L±00/		L &
			られている。 ※該当する場合は	ま左の口にナコ		たさい。
		いは政策判断を伴い、民間			3	
		実施するよりも効果的であ			5	В
		目や県で類似事業を実施し	ていない。		3	
3. 実施内	容は適切か	?				
①有効性						
□ 久山田	丁総合計画 基	基本計画の将来計画を実現	見するために有効な事業である。		5	
□ 事業0	0手法•活動	内容は適切である。			4	Α
		犬況や進捗状況は順調でも	ある。		4	
②効率性		NOT NOT THE PROPERTY OF THE PR			ı	
O	_	-成果を上げている。			4	
		管理者を含む)による効率	いが図られている		4	В
		こより効果を維持しながら=			4	
<u>□ 天</u> 肥/ ③公平性		-より効果を維持しながら-	ロスト門派を囚うている。		4	
O 1 1-	_ ~_ //	、 一部 晒 は ナン・、 / 士 + は	☆ 光 夬 舟 扣 ナ 犬 ゆ フ = しょご ☆ ツ =	=+~! · ·	2	
			受益者負担を求めることが適当で	こない。)	3	_
		-般財源の額は妥当である			4	В
□ ホーム	ページや広	、報を活用し、積極的に情報	最を公開している。		4	
				-		
슬:	後の方向性	A・B=目標達成で		l		
		し"リー日保建成(しの具体に	
			充し、更なる事業推進を図る)		地方法のエ	
☑ B現状	:維持(計画。	どおり進んでおり、現状のる	まま事業を進める)	□事第	美の効率化	Ś
□ C見直	じ			□ 受益	益者負担σ	適正化
□ D廃止					 能縮小	
□ E完了						
					,,,,	
一次評価の	0理由(今後	の方向性等について具体	的 に)			
グローバリ	人材育成事	重業でけΔI T3名を雇田する	ることで、幼保小中のスムーズは	エ	続につたも	がってい
			5の学力の向上に確実につかがっ			

る。また、英語室の開催で、英様の合格率や英語の学力の向上に確実につながってあり、その成果があかっていることは明確である。このようなソフト事業は継続することでさらに効果があがることが期待されるので、さらに工夫をこらしながら継続していきたい。





ACTION(評価·改善)

自己評価、一次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.5

二岁	次評価 評価者 江上智惠		
	A以下の点について良好と評価し、コストを拡充し更なる事業推進を図る。		
/	B計画どおり、現状のまま事業を継続する。 ALTは幼稚園・保育園から学習を行っており、中学生の英語の偏差値も全国	五亚	
	均を上回り成績は上昇を続けている。英語教育の成果は目に見えており、 は世界を視野に入れたリーダー的な人材育成を行うことを目指し、事業の総が必要である。	今後	
	<u>C事業継続と判断するが、以下の課題を解決するため計画の見直しを行う。</u>	<u> </u>	
	D事業廃止と判断し、外部評価委員会に諮ることとする。		ᄡᄳᇒᅜᆇᄝᄼ
			外部評価委員会 で評価する。
			月 日 開催予定
	E事業の目的を達成し、事業完了したと判断する。		用惟了走
	一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直し	<u>、を求</u> める。	>+==\m_+ \\
			一次評価をやり 直し、 月 日 までに提出するこ と。
			□ 評価終了 □ 外部評価へ

ACTION(評価·改善)

自己評価、一次評価、二次評価の結果を踏まえ、実施体系の進捗状況と照らし合わせ評価を行う。

No.6

外部 <u>評価</u>		2	
	今後の方	向性 A・B=目標達成できたもの C・D=目標達成できていないもの	C見直しの具体的内容
		回どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る) 十画どおり進んでおり、現状のまま事業を進める)	□ 実施方法の工夫 □ 事業の効率化 □ 受益者負担の適正化 □ 事業縮小 □ その他
<u> </u>			<u> </u>
評価		外部評価委員の意見	
√7 ±4 -4 .			
怪営者会記		n. =	
経 :	営者評価	町長	
	今後の方	att A・B=目標達成できたもの	7
		^{PTE} C・D=目標 <mark>達成できていないもの</mark> 国どおり進んでおり、コストを拡充し、更なる事業推進を図る)	□ C見直しの具体的内容 □ 実施方法の工夫
		一部でおり進んでおり、現状のまま事業を進める)	□ 事業の効率化 □ 受益者負担の適正化 □ 事業縮小 □ その他
		経営者会議の結果	
評価			
令和] 5 年度予算	「要求事項(今後の取り組み)	